

会議録

会 議 名	平成 30 年度第 1 回 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会	
日 時	平成 30 年 8 月 9 日 (木) 午後 7 時 ～ 8 時 30 分	
場 所	八王子市役所 本庁舎事務棟 7 階 702 会議室	
出席者氏名	参加者	荒井富雄、石川敏之、落合隆、澤昌秀、中庭光彦、沼崎明大、古谷純
	事務局	小柳悟（都市戦略部長）、元木博（都市戦略課長）、石川智也（都市戦略課主査）、沓川剛（都市戦略課主任）、興梠翔大（都市戦略課主任）、荒船翔哉（都市戦略課主事）
	その他市出席者	小山等（総合経営部長）、小浦晴実（市民活動推進部長）、豊田聡（子ども家庭部長）、廣瀬勉（産業振興部長）、音村昭人（農林課長）
欠席者氏名	伊藤史子、西村南海子	
次第	1 開 会 2 議 事 (1) 八王子市の人口の現状について (2) 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成 29 年度実績評価について (3) 地方創生加速化交付金事業に係る効果検証について (4) まち・ひと・しごと創生総合戦略の今後の展開について 3 その他 4 閉 会	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由	—	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	資料 1 八王子市の人口の現状 資料 2 自治体戦略 2040 構想研究会 第一次・第二次報告の概要 資料 3 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 29 年度の実績評価 資料 4 地方創生加速化交付金事業 概要 資料 5 まち・ひと・しごと創生基本方針 2018 概要	
会議の内容	別紙のとおり	

1. 開会

≪参加者紹介≫

【事務局】

(参加者の紹介及び挨拶)

2. 八王子市の人口の現状及び自治体戦略 2040 構想研究会 第一次・第二次報告の概要について

≪説明≫

【事務局】

(配付資料 1～2 についての説明)

≪意見等≫

【荒井氏】

- ・人口減少が明らかになっているなかで、出生率をいかに上げるかが課題になっている。総合戦略では、国民希望出生率の 1.8 を目指すこととしているが、これを上方修正する考えはあるのか。

【沼崎氏】

- ・社会動態について、どこの自治体からの転入なのか、どこの自治体への転出なのかということは把握しているのか。傾向を把握する必要があるのではないか。

【中庭氏】

- ・年齢別や性別ごとの社会増減を掲載してはどうか。また、合計特殊出生率の推移なども。
- ・「労働力不足」が叫ばれるなかで、国においては、女性活躍の推進が図られているが、女性の社会進出が進むと合計特殊出生率は下がってくるはず。このような状況の下で、自治体としてどのような施策に取り組んでいくかということが重要である。

(事務局から説明)

- ・出生率の目標(1.8)を上方修正する考えはないが、次期改定期には検討しなければならない。
- ・どの自治体からの(への)転出入なのかや年齢別・性別ごとの社会動態についても、調査の必要性を感じている。

【荒井氏】

- ・学校給食が来年度から中学校でも始まるが、教育関係にかかる費用をできるだけ無料化できるような政策を考えられないか。
- ・特に、子育て施策に特化した戦略にしてほしい。八王子市の独自性を打ち出して、子育て世代をどう支援していくかを考えてほしい。

【子ども家庭部長】

- ・国において、保育の無償化を進めている。市においても、これに伴って、待機児童が増えたり財源が厳しくなったり、いろいろな影響が考えられる。国の動向を見ながら、検討していきたい。

【産業振興部長】

- ・八王子市のような人口の大きい自治体では、教育の無償化によって何億円という費用がかかる場合もあり、全体のバランスを考えながら検討する必要がある。

【澤氏】

- 人口は減るより増えたほうが良いが、何を指して人口を増やしていきたいのか。
- 税金を納めている以上に税金をかけているところもある。人口が減っていくなかで、本当に必要な施策なのか。例えば、保育を切り離すという考えはないのか。さらに、人を増やした結果、どうしたいのか。税金を投入して子育て施策に重点的に取り組んでも、大人になって出て行ってしまっは仕方がない。
- どのような将来を目指すのか、明確にすべきであって、総花的になってはいけない。結局は、他の自治体とのパイの取り合いになる。

(事務局から説明)

- 自治体は住民の福祉の増進を目的としている。財政面の話だけで取捨選択するのは難しい。

【荒井氏】

- 高齢者福祉にお金をかけすぎている。受益者負担の原則からかけ離れてきてしまっている。一方で子育て施策は少ない。限りない財源のなかで、高齢者に対する重複施策を見直して、子育て施策に回してはどうか。

【澤氏】

- 自治体は、市民の幸福が目的であるはず。すべて丁寧にやろうとすると、どんどん膨らんでいく。どこかを縮める必要がある。

【中庭氏】

- 人口について、東京 23 区では一貫して上昇トレンドが続いている。民間鉄道事業者の路線延長などにより、通勤圏も広がるなかで、八王子市は 2015 年から 2040 年の人口増減率で-20%のところを位置している。
- 首都圏への集積度が上がっているなかで、集積していかないところには、民間活力も取り入れながら、どのように利便性を確保するのか。メリハリが重要になってくる。これは、行政にとっても同じで、八王子市の目標として、人口の次に何を指すのか。

(事務局から説明)

- 人口減少問題は、一昔前に行政の課題として取り上げることはなかったことだが、今は最重要課題となっている。

【古谷氏】

- 資料 1・2 から、何を読み取るのか。現状把握のうえで、だからどうなのかという分析が必要。
- 例えば、人口が減っているという現状は、良いことなのかそうでないのか。-20% (人口増減率) に位置していることは、どのように評価するのか。

(事務局から説明)

- 今後、議論していかなければならない部分だと認識している。個別の施策についても振り返りになってしまっているので、来年度以降に向けて、再度ご意見をいただく機会を設けたいと考えている。

3. 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成 29 年度実績評価について

《説明》

【事務局】

(配付資料 3 について、達成状況が「△ (遅れているもの)」を中心に説明。)

《意見等》

【荒井氏】

- ・地域交流や町会自治会加入率については、市の分析のとおり。現状のままでは良くない。
- ・今の施策のままでは指標は上がらない。個人情報やプライバシーの問題がある。地域交流を促進したい一方で、国の法律などは全てそれに逆行している。地域のコミュニティが崩れている。
- ・脱退理由は、町会役員の仕事が負担になっていることと高齢になっていることの2つが主。
- ・行政（市）からの町会への依頼が多すぎる。地域の福祉の問題は地域で解決しなければならないことが増えてきている。行政が届かない部分が明らかになってきており、町会の仕事がますます増えている。

【市民活動推進部長】

- ・町会の役員の負担が大きいことは承知している。また、加入率を下げる要因としては、外国人住民の増加も考えられる。個人情報などに対する考え方の変化もあり、これらを踏まえた施策の展開が必要と認識している。

【荒井氏】

- ・例えば、市役所の仕事で町会・自治会でできることは分権することも考えてほしい。非常勤公務員みたいな形で、未加入者にも働きかけるような仕組みを将来的に考えてほしい。

【古谷氏】

- ・個々の施策に関連性を持たせてほしい。トレードオフの関係があるはず。すべてに関連性を持たせるのは難しいかもしれないが、できるところからやっていかないと変わらないのではないか。

（事務局から説明）

- ・KPI を押し上げる施策なのかどうかを立証するのは、難しい部分がある。因果関係が分かるものとそうでないものがある。

【澤氏】

- ・一度、ショック療法として、総合戦略自体をやめてみるのはどうか。例えば、民間企業において、販促をやめても、客足は変わらなかったという例もある。人命に関わるようなことではなく、今後市の職員数を減らしていかなければならない状況にもあり、選択と集中が必要。
- ・行政改革の一環で、公園が指定管理になったところがあるが、指定管理になったことで、地域の交流が無くなった例もある。

【総合経営部長】

- ・各施策にそのステークホルダーがいる。市民の方々には八王子市役所しかなく、なかなか「やめてしまう」ということにはいかない。
- ・総合戦略自体が国の施策であり、各施策に対するKPIを設定することが求められている。

【古谷氏】

- ・KPI の数を減らしてもよいから、詳細に分析して効果を検証して、施策に反映できるPDCAを回すべき。

【荒井氏】

- ・行政は、市民の95%が満足していることでも、5%が不満に感じているのであれば、そこについての取組を考えがち。

【澤氏】

- 全てやめてしまえと言っているわけではなく、総合戦略に基づく評価はこっさりやればよいのではないか。KPIの進行管理が大変になっていて、有効な分析ができていない。一度策定したからやめられないということはあるが、進行管理はやめてみるとか。

【石川氏】

- 道の駅について、利用者等の拡大のために「都市農業」をどうするかという視点をもう少し取り入れてほしい。
- 他の商業施設を同じようなものを置いても、魅力を感じないのではないか。
- ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスについて、もう少し言及してほしい。
- 景観のことについて、地域ルールの記載があるが、それ以外の内容について、特に今後の八王子市の取組について触れてほしい。

4. 地方創生加速化交付金事業に係る効果検証について

《説明》

【事務局】

(配付資料4について説明)

5. まち・ひと・しごと創生総合戦略の今後の展開について

《説明》

【事務局】

(配付資料5について説明)

《意見等》

【荒井氏】

- 最終的な落としどころはどうか。具体的な取組が見えず、成果が分からない。

(事務局から説明)

- 各KPIについて、全て達成したいところだが、できないものについては、次期改定を踏まえて見直していきたい。
- 個別の事業について、全て因果関係を立証することは難しい。

【古谷氏】

- 因果関係が分かるところだけでも、分析していくことでよいのではないか。

【沼崎氏】

- 目標値のレベル設定が分からない。全国平均と比べてどうなのかなど。例えば、町会自治会加入率の目標設定は、八王子市だけ著しく高いということなどはないのか。

【荒井氏】

- どの自治体においても、町会加入率は減少している。ただし、被災地は抜群に高い。中越地震後は、100%になったところもある。
- 現状で満足している人、危機感がない人が多いなかで、加入率の向上は見込めない。

6. その他

〈説明〉

【事務局】

- ・本日いただいた意見を参考とさせていただき、平成 29 年度実績報告書を作成する。

7. 閉会